

よしだ

文化会館だより

No. 93

2007. 4. 1



解放へのいとなみと 人権文化の高まりを求めて

第20回笠岡市人権・部落解放文化祭が
開催されました

3月2日から4日までの3日間、吉田文化会館と吉田小学校体育館を会場に、笠岡市人権・部落解放文化祭が開催されました。

この文化祭は、文化会館及び集会所を拠点にした教育・文化活動を奨励するとともに、同和問題を中心にした市民啓発と人権文化の高揚に役立てることを目的に毎年開催しているもので、今回の開催で20回目という節目を迎えました。

吉田文化会館の展示のコーナーには、同和問題をはじめとする人権問題の解決への願いをこめた保育所、幼稚園、小・中学校、企業などの人権に関する学習成果の発表、各種講座からの作品、人権啓発パネルなど550点が展示されました。また、吉田小学校体育館では、福祉施設・福祉団体による展示や、人権の花運動写真展、人権フォトコンテスト入賞作品展、児童・生徒による人権啓発作品展、人権を考える集い、ふれあいの集いなどが開催されました。

このうち、人権を考える集いでは、ハンドベル演奏や群読と合唱が披露されたあと、西光寺副住職の清原隆宣^{ひら}さんを講師に迎え、「人の世に熱と光を！」と題した講演が行われました。清原さんは、軽妙な会話の中に具体例を織り交ぜながら、「ある

よしだ文化会館だより①



がままにそのまま認めあうことが大切。間違ったものさしはみんなで直していこう」と呼びかけました。
また、ふれあいの集いでは、地元の方々による文化活動のステージ発表やコースターづくりなどの体験コーナー、ちくわ笛奏者として有名な住宅^{すまいたけ}正人さんのトーク&ライブが行われ、多数の来場者で賑わいました。

参加者からの声

ハンドベルの美しい音色と真剣な姿、そして、これからの時代を担う中学生の真剣な歌声、姿、感動しました。
講演では、自分自身を振りかえるよい機会になりました。そして、もう一歩前へ進まなくてはと思いました。